

H25 年度第 1 回保全事業報告会



<開催日時>

- 平成25年9月11日(水)19:00-20:30 谷津公民館(12名)

<説明内容>

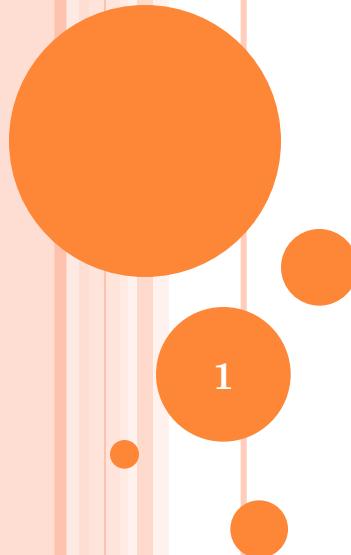
- 保全事業の経過報告
- 平成 24 年度の結果報告と平成 25 年度の計画説明

※資料

[説明用資料.pdf](#)

[議事概要.pdf](#)

国指定谷津鳥獣保護区 保全事業の経緯



関東地方環境事務所

1. 保全事業の実施(平成22年度～)

位置付け

シギ・チドリ類の採餌場

都市部に残された自然

地域の財産

国指定谷津鳥獣保護区

●目的

鳥類の保護・生息地の保護

●指定要件

集団渡来地

ラムサール条約登録湿地

●目的

湿地の保全と賢明な利用

●湿地の特徴

泥質干潟、シギ・チドリ渡来地

【現状】

シギ・チドリ類の飛来数の減少

悪臭による生活環境の悪化

望ましい姿

都市部の中に残された貴重な干潟であることから、
自然の営みと人々の生活のバランスが保たれ、
自然と人とが共生できる干潟を目指し、

地域によって守り受け継がれてきた谷津干潟を、
世界に誇れるシギ・チドリ類の渡来地として、
安らぎ・憩える地域のかけがえのない財産として、
将来にわたって地域とともに継承していきます

保全対象

鳥類(シギ・チドリ類)が
渡来(採餌)できる干潟環境の保全

周辺住民の生活環境の改善
(アオサの腐敗臭対策)

2. 保全事業の取組み状況(平成25年度現在)

東北地方太平洋沖地震

H22年度

H23年度

H24年度

H25年度

H26年度
(予定)

資料整理
現地調査

資料整理

※地震後の地形調査

基礎調査

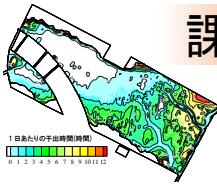
…地形・底質・流れ・底生生物等

解析検討

課題抽出・要因分析

対策具体化に向けた補足調査(適宜)

…河川内堆積物、貝殻調査、アオサ調査等



保全事業計画
の検討・策定

机上検討(数値シミュレーション)

※地形変化による見直し

対策の具体化

実証試験

保全方針・保全対策

事業内容・スケジュール・体制

※地形変化による見直し

※保全事業実施
計画の公表

専門家の助言



検討会等



地域との連携



報告会等

※HP開設 連携・協働 ※住民参加イベント等



保全事業の実施



緊急的な対策の実施(アオサ回収) ※H14年度より継続実施

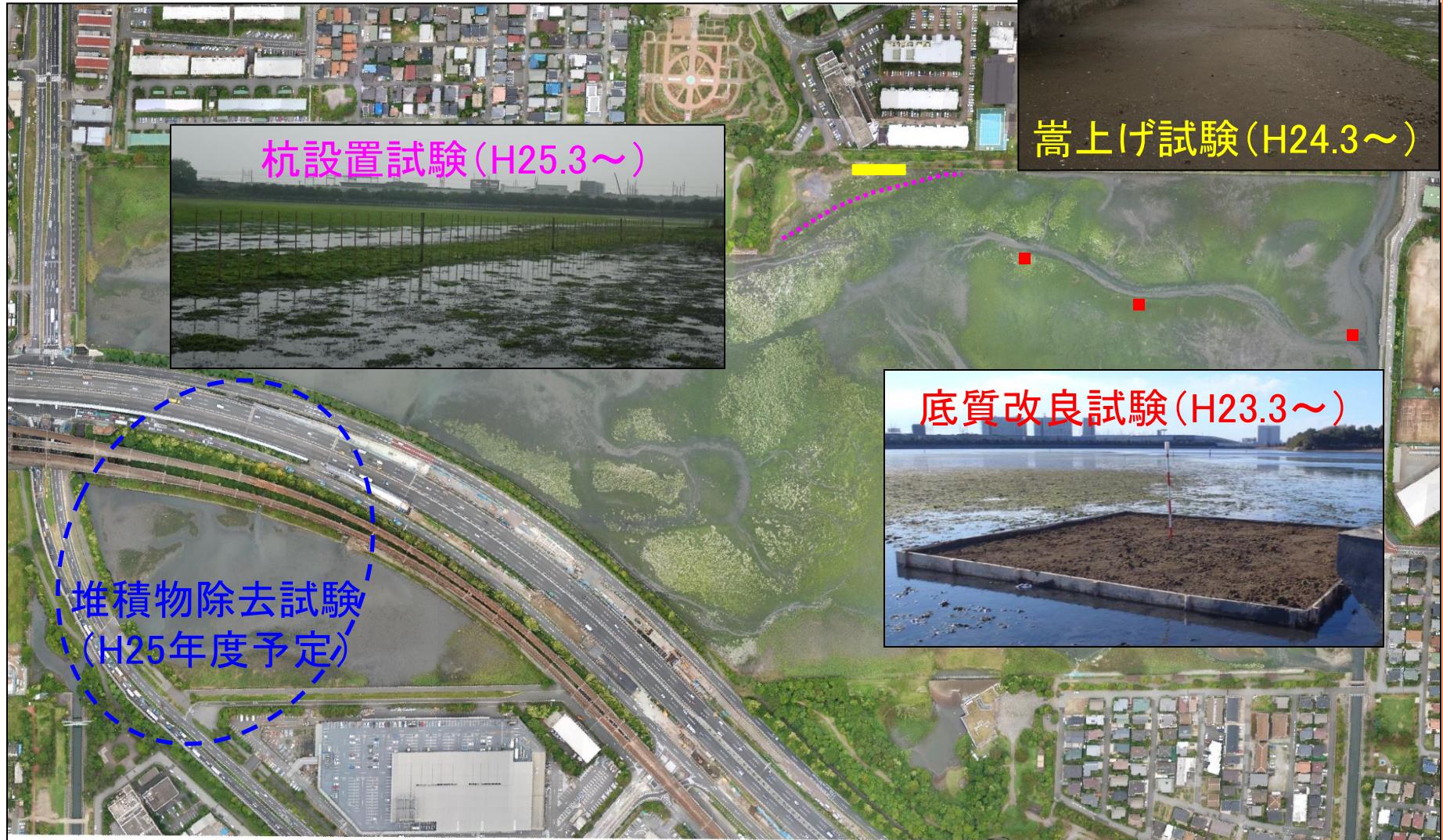
保全事業へ

5

これまでの経過報告と 平成25年度の計画説明



1. 実証試験



0 125 250 500 750 1,000 m

底質改良試験：底質を砂⇒泥にすることでゴカイ類をふやす

施工直後(2011/03/08)



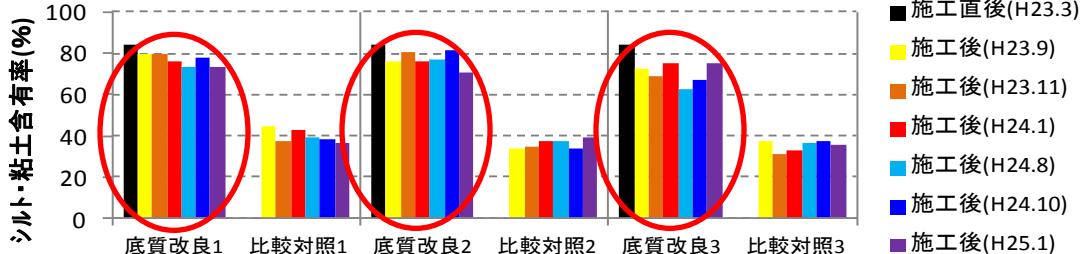
泥分の多い底質材をかぶせた



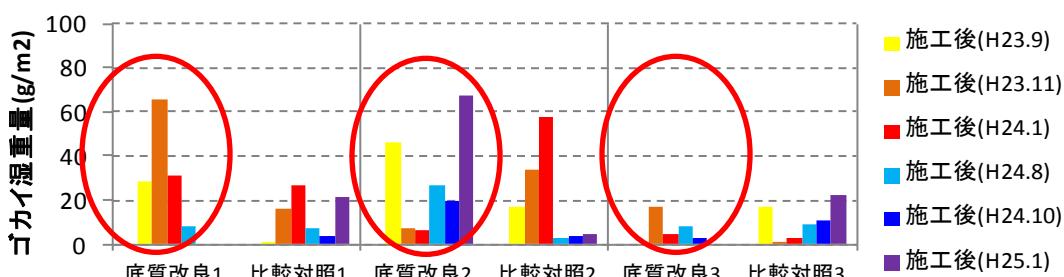
施工後(2013/01/16)



平成24年度 国指定谷津鳥獣保護区
保全事業計画推進業務
工種・実証試験



泥分は維持



ゴカイ類の生息状況は周りと変わらない

アオサが堆積・腐敗すると底生生物の生息環境が悪化する可能性
⇒試験区の改良(平成25年度)

試験区の一部をネットで囲い、
アオサが堆積しない区画を設置



嵩上げ試験・杭設置試験:アオサの吹き寄せ・堆積を防ぐ

平成23年7月13日

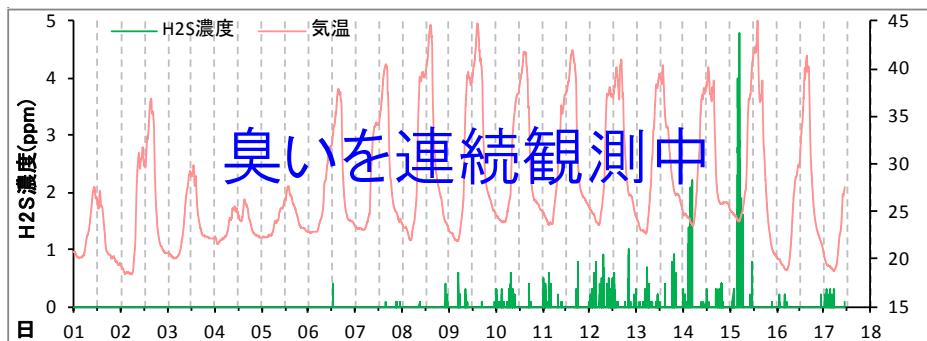
施工前



施工後



護岸からアオサを遠ざけることができた。



H25/8/3 11時 潮位-49cm



H25/8/3 15時 潮位37cm



H25/8/4 9時30分潮位-49cm

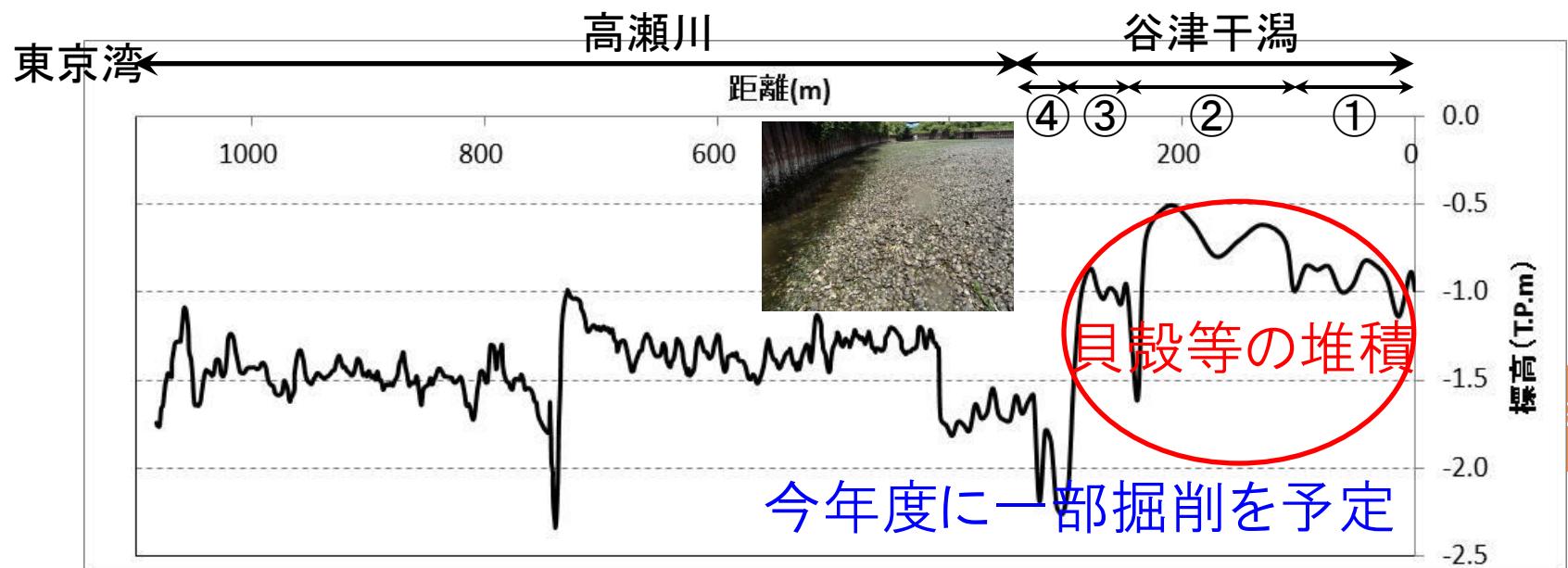
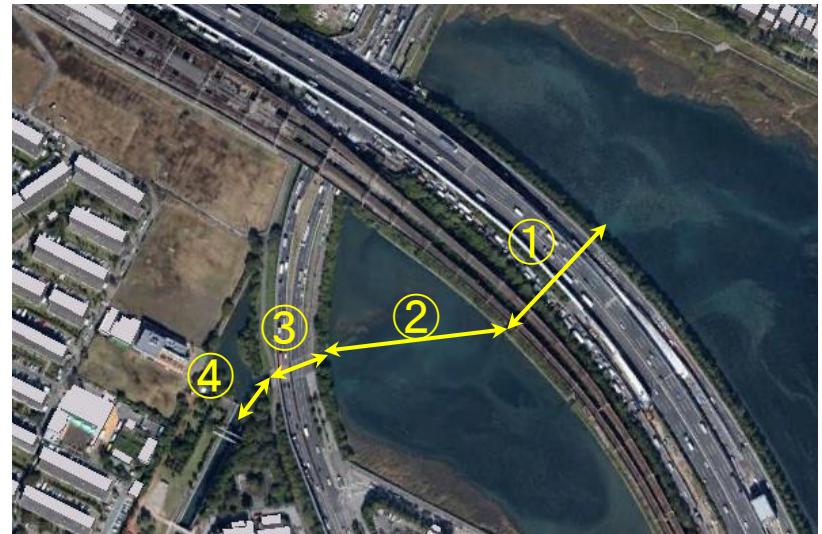


H25/8/3 17時 潮位64cm



杭によりアオサが止められている。

堆積物除去試験(平成25年度): 干潟内の流れを改善し、干出時間・干出面積を増やす



2. 地域との合意形成

報告会

- ・ 平成22年度(2/20・2/22:谷津干潟自然観察センター、78名)
- ・ 平成23年度(8/5、1/20 :谷津干潟自然観察センター、46名)
- ・ 平成24年度(10/12、2/26 :谷津干潟自然観察センター、58名)
- ・ 平成25年度(9/11、1～3月(場所未定) :谷津公民館)



普及啓発

○パンフレット

- H23年度
保全事業パンフレット

- H24年度
保全事業計画パンフレット

国指定谷津鳥獣保護区における保全事業について

❖ 実証試験の実施
△ 砂鸻飼育場の一部に泥をのせ、その効果や影響を検証する試験を実施しています。

❖ アオサ回収
△ アオサを少しでも減らすため、回収活動を継続的に実施しています。

❖ 地域との意見形成
 ① 情報提供の機会づくり
 △ 聞き取り様式結果について、パンフレットやホームページ等で公表・公開するとともに、分かりやすくお伝えする雑誌を定期的に配ります。

② 見面交換の機会づくり
 △ 開催機関・団体と協力しながら、地域との意見交換の機会を設け、住民の想いや書きをする限り計画づくりに反映できるよう努めます。

③ 地域との協同の機会づくり
 △ 開催機関・団体と協力しながら、野鳥観察会やアオサ回収など、行政と地域が一体となって取り組める機会を設けます。

❖ 谷津干潟の特徴
 △ 谷津干潟は、周辺の埋立てが進むなか、地域の熱心な保護活動により守られた約40haの干潟で、東京湾と接する2本の水路を通じて、海水が流入・流出を繰り返しています。

△ 砂泥堆積による干潟には、約200種に及ぶ多様な鳥類が駐多く飛来し、全国有数のシギ・チドリ類の産卵地となっています。

△ 保護者では、谷津干潟を国指定谷津鳥獣保護区に指定し、鳥類の保護を図っています。また、水鳥の生息地としてラムサール条約登録地に登録され、ヨーロッパの保護が図られています。

△ 年間を通して数多くの野鳥がみられ、都心に近くアクセスが良いことから、ハードウォッチング、散策・休息、自然学習の場として、多くの人々に親しまれています。

❖ 谷津干潟の環境
 △ 鸟類の飛来状況によれば、飛来する飛来種減少、アオサ繁殖、干潟の一部で、深堀化(埋地化)、砂質化、貝類の増加など、干潟に様々な変化が見られています。

△ アオサの堆積・枯死に伴う腐敗臭が、周辺住民の生活環境を著しく悪化させています。

△ このまま放っておくと、国指定谷津鳥獣保護区の指定物件である谷津干潟地帯、ラムサール条約登録地で位置付けられる泥干潟にシギ・チドリ類の巣地といった、谷津干潟の特徴が失われてしまう懸念があることから、早急かつ慎重な対応が求められています。

4



発行 関東地方環境事務所
〒330-6018 さいたま市中央区新都心11-2 碧谷新田生命ビル18階
TEL: 048-600-0617 / FAX: 048-600-0517

❖ スケジュール
△ 来年度予定の施設スケジュールは下記のとおりで、計画的に保全事業を進めます。

年次	年次計画	年次実績
平成23年度	新規開拓	新規開拓
平成24年度	新規開拓	新規開拓
平成25年度	新規開拓	新規開拓
平成26年度	新規開拓	新規開拓
平成27年度	新規開拓	新規開拓
平成28年度	新規開拓	新規開拓

❖ 実施体制
△ 滋賀県行政担当課や滋賀県管理者などの関係機関の協力者団体から、専門家の組織や団体との連携のもと、地域と一緒にして谷津干潟の保全に取り組みます。



❖ 国指定谷津鳥獣保護区保全事業計画

1

❖ 谷津干潟の特徴
 △ 谷津干潟は、周辺の埋立てが進むなか、地域の熱心な保護活動によって守られた約40haの干潟で、東京湾と接する2本の水路を通じて、海水が流入・流出を繰り返しています。

△ 砂泥堆積による干潟には、年間約80~100種の鳥類が飛来し、全国有数のシギ・チドリ類の産卵地となっています。

△ 保護者では、谷津干潟を国指定谷津鳥獣保護区に指定し、鳥類の保護を図っています。また、水鳥の生息地としてラムサール条約登録地に登録され、干潟保護の保全に努めています。

△ 年間を通して数多くの野鳥がみられ、都心に近くアクセスが良いことから、ハードウォッチング、散策・休息、自然学習の場として、多くの人々に親しまれています。

❖ 谷津干潟における環境変化
 △ 元々は赤潮に悩むする主婦の谷津干潟の一部でしたが、1970年代に堤防が建立され、防波竹の導入が行われました。当時はまだ工事が未だだった尾が手側に向かって施工しておられたコガイヤカニアが多く生息する尾が手干潟でした。

△その後、尾が手年に完成し、一帯で干潟農業の減少、谷津干潟や西脇の漁業、生物では幹鶴やアオサの繁殖・飛来などがみられ、谷津干潟の環境へと変化しつつあります。

❖ 谷津干潟における環境変化

年	年	年	年
1980	1985	1990	1995
2000	2005	2010	2015
2020	2025	2030	2035

谷津干潟における環境変化

○WEBサイト

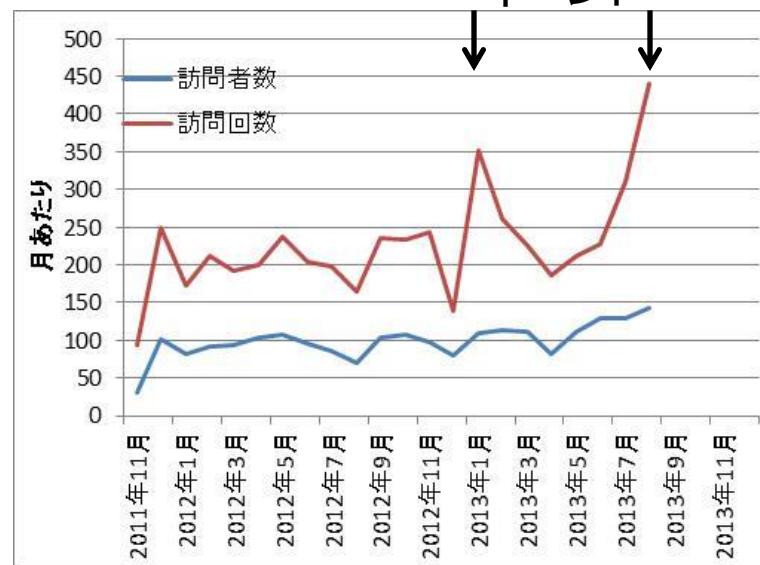
国指定谷津鳥獣保護区保全事業

谷津干潟の生態地帯が大幅に減少していることから、鳥類の生息環境の改善等を目的として、鳥類の生息地の保全及び整備を目的とした保全事業を平成22年度より実施することになりました。本ホームページでは、国指定谷津鳥獣保護区保全事業に関する情報を発信しています。

▼お知らせ

- 2013/09/11 【専門家による検討会】H25年度第1回国指定谷津鳥獣保護区保全事業検討会を9月11日に開催します。[\[詳しく\]](#)
- 2013/09/11 【地域との合意形成】H25年度第1回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会を9月11日に開催します。[\[詳しく\]](#)
- 2013/08/05 【イベント】谷津干潟保全事業現地見学会を8月24日開催しました。[\[詳しく\]](#)
- 2013/08/29 【地域との合意形成】「H25年度第1回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会」を追加更新しました。
- 2013/08/05 【地域との合意形成】「H24年度第2回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会」を追加更新しました。

All rights Reserved. Copyright © 2011 関東地方環境事務所



メインカテゴリ	サブカテゴリ
お知らせ	検討会・報告会・イベント・情報更新等
谷津干潟	谷津干潟の特徴／指定・登録状況／調査・検討の経緯
保全事業	重要性／現状と課題／保全事業の計画・実施
保全の取り組み	現地試験(底質改良試験／嵩上げ試験／杭設置試験)／アオサ回収活動／鳥類のモニタリング
専門家による検討	検討会の概要
地域との合意形成	報告会等の概要／イベントの開催／意見受付
資料データベース	過去からの変遷／基礎データ(地形・水位・アオサ)／パンフレット／保全事業計画書
外部リンク	環境省、関東地方環境事務所、習志野市

WEBサイトを活用した住民参加モニタリング(平成25年度)



アオサ報告フォーム

谷津干潟のアオサ発生状況の観測にご協力をお願いします。近隣住民の皆様からの貴重なご報告をお待ちしております。

水の色はどうですか？
天気や時刻にもよりますがおよその色を教えて下さい。

色
1. ■ 海水と同じ色
2. ■ 違い緑色
3. ■ 違いオリーブ色
4. ■ 黒に近い緑色
5. ■ 黒
0. わからない

においはどうですか？
1. におわない
2. 少しにおう
3. 少しくさい
4. くさい
5. かなりくさい
0. わからない

範囲
アオサが広がっている範囲はどうですか？
数日前に見た時と比べて、先月見た時と比べて、など大体の感覚で結構です。

1. ほとんど確認できない
2. 少ない
3. やや少ない
4. やや広がっている
5. かなり広がっている
0. わからない

写真
観測した時の写真があつたらぜひお送り下さい。
ファイルサイズは5MB以内でお願い致します。
 ファイルが選択されません。

観測した日時
2013年 08月 27日 12時頃

観測した方
お名前またはニックネームをご記入下さい。
※ウェブサイトに掲載されます。

→ 送信する

試行を計画中

住民参加イベントの開催

平成24年度(1/26:谷津干潟保全事業現地見学会、146名)



平成25年度(8/24:谷津干潟保全事業現地見学会、105名)

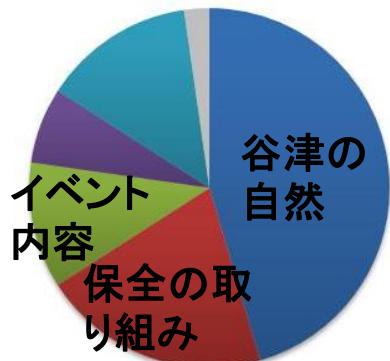
※今年度中にあと2回開催を予定



習志野市イベント「愛で包もう谷津干潟」と同時開催



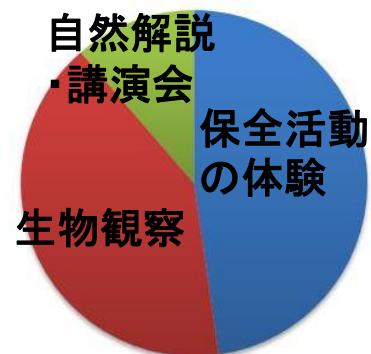
参加動機



イベントの満足度



今後取り上げてほしい内容



- 「アオサの回収や臭いの対策についての話が参考になった(60代男性)」
- 「実際に試験地を見ることでアオサの問題を考えることができて良い機会であった(20代女性)・大学生」

第2回イベント(10/27)
習志野市イベント「アオサについて考える集い」との同時開催を予定

3.事業の計画づくり

事業計画書(平成23年度)

1.谷津干潟の概要

- (1)谷津干潟の特徴 (2)指定・登録状況
- (3)調査・検討の経緯

2.保全事業

- (1)国指定谷津鳥獣保護区の重要性
- (2)環境変化と今後想定される変化 (3)保全事業の必要性)

3.保全方針

- (1)望ましい姿と保全対象 (2)保全目標 (3)保全の考え方

4.保全対策

- (1)保全上の課題 (2)課題の優先度 (3)対策メニューの抽出
- (4)対策案の比較・検討 (5)保全対策の具体化

5.保全事業の進め方

- (1)保全事業の流れ (2)保全に向けた取り組み
- (3)スケジュール (4)実施体制

国指定谷津鳥獣保護区
保全事業計画書



平成24年3月

関東地方環境事務所

→内容を具体
化した事業実
施計画を検討

事業実施計画書(骨子:平成25年度)

1.事業目的と基本的な考え方

2.事業内容

(1)有効な対策メニュー (2)効果的な事業内容

(3)事業の実施方法

3.モニタリング計画

(1)モニタリング方法 (2)結果整理

4.事業の評価方法

(1)事業の目標 (2)事業の評価方法

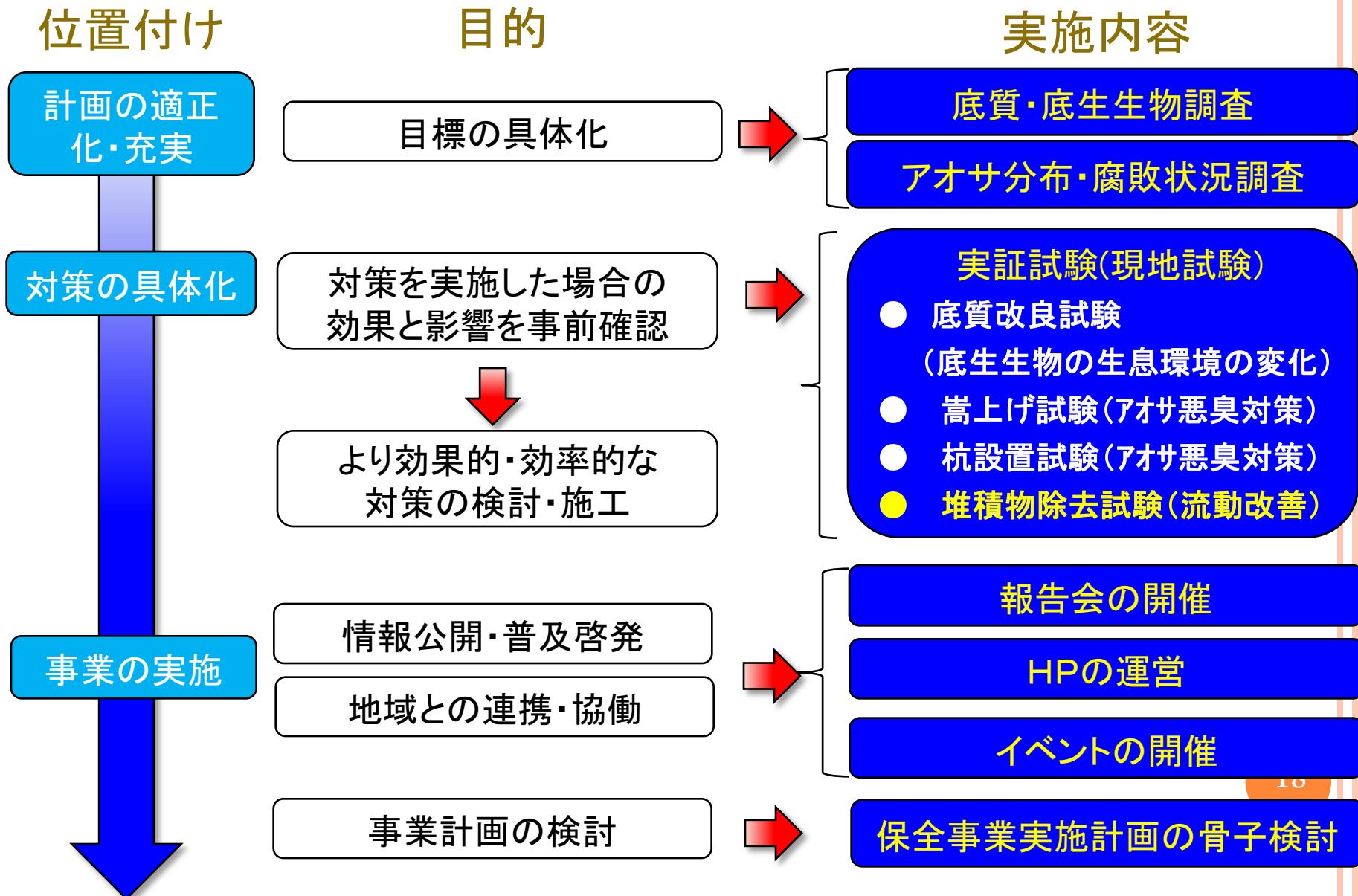
5.スケジュール

(1)概略スケジュール・詳細スケジュール

(2)進捗確認・事業評価

6.実施体制・役割分担

4.平成25年度の業務項目



スケジュール(案)

	夏	秋	冬
現地調査	目標の具体化に向けた現地調査 (底質・底生生物調査／アオサ分布・腐敗状況調査)		
実証試験	底質改良試験の改良⇒モニタリング・評価 嵩上げ試験のモニタリング・評価 杭設置試験のモニタリング・評価 流路の堆積物除去試験の検討		
地域住民との連携	HPの運営 報告会		
事業計画	イベント <small>※習志野市イベントとの同時開催</small>	イベント	イベント
保全事業実施計画の骨子検討			

平成 25 年度第 1 回国指定谷津鳥獣保護区保全事業報告会
(平成 25 年 9 月 11 日(水)19:00～20:00 谷津公民館 講義室)
議 事 概 要

- 参加者** ・ 嵩上げ区周辺において、杭で止められていたアオサが 9 月 7 日朝になくなつて、内側に吹き寄せられていた。ちょうど大潮と重なる時期であるが、その影響ではないか。写真を撮影したので、今後のために提供したい。
- 事務局** ・ ご指摘の通り、その時期にアオサは杭の内側に広がっていた。杭の近くに設置してある定点カメラの画像を確認したところ、杭の間を抜けて内側に広がったのではなく、杭を設置していない箇所から侵入したアオサが 9 月 6 日の朝に杭の内側に徐々に広がったことが分かった。今後この部分にも杭を設置するなどして対応していきたい。
- 参加者** ・ 杭の内側のアオサは、潮が高い時に杭を設置していない場所から入ったものである。設置された杭は非常に役立っている。また、嵩上げも効果が見られているうえ、アオサ回収の際に、回収したアオサを一時的に嵩上げ区に置いておくことができるなど、アオサ回収作業にも役立っている。
- 参加者** ・ 大潮時にアオサが杭の脇から入ってくることは止むを得ないと考えられる。また、嵩上げ区周辺で鳥が餌をついばんでいる様子がよく見られるが、底生動物は増加したのか。
- 事務局** ・ 底生動物調査については先週実施し、現在結果をまとめているところであり結果が出でていない。次回の報告会で報告する。
- 参加者** ・ 谷津干潟は習志野市の財産である。水鳥だけでなくツバメやカワセミもみられる。鳥だけではなく、スズキ、大きなボラ等が多く観察可能であるなど、住宅地に近接した場所での大変貴重な環境と考えられる。習志野市には、市の町づくり会議、町会、管理組合、自治会等の団体へもっとアピールし、多くの人に関心を持ってもらえるように働きかけることを要望する。
- 習志野市** ・ 今回の報告会を谷津公民館で実施したのも、住民の方々に参加しやすい様にという事務局の考え方からであったが、参加人数が少なくなってしまった。町会へお知らせはしていたが、今後は地元のまちづくり会議へ話をするなど、もっと積極的に PR していきたい。
- 参加者** ・ 本年度は気温が高かったがアオサの吹き寄せやにおいが少なかったように感じた。気温とアオサの関係はあるのか。
- 事務局** ・ 吹き寄せ対策によりアオサを遊歩道より少しでも遠くへ離すことはできているが、悪臭が軽減できているかどうかは確かめられていない。臭いの測定を試みているが、人間の鼻のほうが敏感のようで、効果を定量的に評価するまでには至っていない。気温とアオサの悪臭との関係は説明しきれていない。
- 参加者** ・ 北西部のヨシが増えているような感じがするが、実際はどのようになっている

- か。また、予算はどのくらいで、国、県、市の負担割合はどうなっているのか。
- 事務局**
- ・ ヨシの面積の変化は把握できていない。事業費は 23 年、24 年共に 3000 万円程度である。保全事業として実施している部分の費用は全て環境省が負担している。
- 参加者**
- ・ 観察センターでの活動に参加しているが、ラムサール 20 周年ということもあり、とても盛り上がっている。これに対して環境省は援助ができないか。
- 事務局**
- ・ 検討会委員からも観察センターや地域住民との連携の重要性を指摘されている。多様な主体と連携をとれるように留意してやっていきたい。
- 参加者**
- ・ 嵩上げはとても効果があるが、嵩上げの端（東側）にアオサがたまっている。東端の橋梁部分まで延長することはできないか。センター横のくぼ地にアオサがたまり、常に悪臭が漂う状況となっている。応急処置でもよいので、何か対策はできないか。臭いは風向きと水位によって全然違う。干潟の周りを歩いている人は決まった時間に歩いている人が多いので、住民参加モニタリングは何か工夫が必要だと思う。
- 事務局**
- ・ 本年度は、干潟と東京湾を結ぶ流路内の堆積物除去も実施予定となっている。今後は決められた予算の範囲で嵩上げや堆積物除去等の対策の中から、効果と費用のバランスを考えて最良な方法を選択していく予定である。
- 参加者**
- ・ 過去に三角干潟へ通じる水路の貝殻除去を行ったら西側の干潟が現れるなどかなりの効果があった。三角干潟と高瀬川に入るところに力を入れて考えないといけない。
- 参加者**
- ・ 歩道橋が出来たことにより三角干潟へのアクセスが良くなつたことから、今後三角干潟を整備すれば鳥類も増え、人にも生物にも良い環境になるのではないか。

以上